

令和3年度 第1回社会教育委員会議 会議録

議決日 令和3年6月15日（火）

備 考 書面会議

出席委員／ 荒川、徳丸、佐藤（一）、山野、佐藤（由）、前川、佐藤（則）、松崎、上野、須賀、岡村、太田、永井、新井、杉山 各委員

欠席委員／ なし

議事参与者／ 松本教育長、渡部教育部長、鈴木館長（中央公民館）、岡本館長（東公民館）、荒川館長（西公民館）、野田館長（南公民館）、桑島館長（北町公民館）、小川館長（下蕨公民館）、佐藤館長（図書館）、佐藤館長（歴史民俗資料館）、黒澤館長（旭町公民館・指定管理者）

事務局／ 加納教育部次長・生涯学習スポーツ課長、池澤生涯学習スポーツ課スポーツ推進係長、岩下生涯学習スポーツ課青少年係長、竹田生涯学習スポーツ課生涯学習振興係長、深津生涯学習スポーツ課主事、島袋生涯学習スポーツ課主事

1 正副議長の選出

議長に徳丸平太郎氏、副議長に佐藤則夫氏が選出された。

2 前回会議録の承認

承認された。

3 議 事

・報告

（1）生涯学習関連行事等について

【資料1】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

（2）生涯学習関連職員の人事異動について

【資料2】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委員： 質疑なし。

(3) 令和3年度生涯学習関連予算について

【資料3】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(4) 令和3年度文化活動事業助成について

【資料4】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

(5) 第7回（令和3年度）蕨市民音楽祭について

【資料5】

上記のことについて、事務局から報告があった。

委 員： 質疑なし。

・協議

(1) 社会教育関係団体の認定について

【資料6】

1件の認定申請があり、事務局から説明があった。

～承認された

委 員： 質疑なし。

4 その他

委 員： このコロナ禍において青少年に及ぼす負の影響は深刻である。行き場を失った青少年の社会教育に一歩踏み込んだ提案をしたい。かつて西公民館は長きに渡り青少年健全育成を重点事業として子供を取り巻く環境浄化やジュニアリーダーの育成に取組み、平成24年には文部科学大臣より優良公民館として表彰を受けたという実績があり、さらなる活動に期待している。このように青少年育成について様々な問題に尽力されていると思うが、このコロナ禍においてはことさら重要視せねばならない。蕨市青少年対策重点目標&推進施策の促進事業として、コロナ禍だからこそ若者に「必要とされている」という実感と希望を与える対策が必要である。

青少年が地域のために様々な形で活躍できる活動の場を用意してもらいたい。今まで青少年育成事業は成年式、戸田・蕨・川口3市青少年の船、ジュニアリーダー育成キャンプ、青少年海外派遣事業等対象としていたが、若者育成事業の中に公民館の担い手としての育成は今後を考える上で重要な案件と考える。現在、各公民館の児童及び母親の活動は活発であるが、シニア世代では新規の会員が増えないことや、後継者問題にも苦労していると聞いている。一方で、青少年の公民館活用が皆無に等しいのも問題である。蕨市には青少年育成センターのような施設がない。だからこそ各公民館に青少年の活動の場を設けることは意義がある。具体例として、各公民館のホームページは残念ながら内容やその楽しさが伝わらず、住民が公民館に一步近付けない一因になっているのではないか。ＩＴに強い若者の協力で改善も期待できる。さらに、蕨の歴史的資源の研究、河鍋暁斎の研究などによる若者の蕨への愛着と誇り、また、蕨ブランドの双子織、蕨林檎などの若者目線での商品企画など、今後、若者のパワーは公民館にとって必要と考える。また、シニア世代、子育て世代と各年代層を取り込むことにより、住民に寄添った公民館になるのではないかと思う。若者を将来の担い手と尊重し、世代間の交流を図りながら活気あふれる公民館作りを期待する。また、有事の際の青少年の協力である。東日本大震災を見ても若者が大きな力を発揮している。公民館と若者の繋がりは即座にできるものではない。日常から若者と接点を持つことが様々な発展に繋がる。

このように公民館活動の担い手を育てるためには、集団の中でリーダーシップ、コミュニケーション能力などを発揮できるスキルやノウハウ。彼らの育成への取組みは必須となる。大学と連携も有効な手段である。